

Peck, S. B., M. C. Thomas, & R. H. Turnbow Jr., 2014. The diversity and distributions of the beetles (Insecta: Coleoptera) of the Guadeloupe Archipelago (Grande-Terre, Basse-Terre, La Désirade, Marie-Galante, Les Saintes, and Petite-Terre), Lesser Antilles. *Insecta Mundai*, 0352: 1–156.

竹内幸夫, 2005. 与論島のハナムグリについて. 鯉角通信, (10): 6.

上里卓己, 2008. 宮古島においてサトウキビ畑で多発生したヤエヤマニセツツマグソコガネ. 鯉角通信, (17): 59–62.

山崎仁屋・松村雅史・吉田和久・力身恭二・目黒賢児, 2016. 鳩間島, 新城島, 黒島の動物相 (FAUNA) ~昆虫相を中心に~. 鳩間島, 新城島, 黒島総合調査報告書. pp. 391–431. 沖縄県立博物館・美術館, 69–80.

(金子直樹 243-0034 厚木市船子 1737

東京農業大学昆虫学研究室)

(重藤裕彬 900-0001 那覇市港町 2-11-1

那覇植物防疫事務所)

【短報】北海道および三重県から発見されたツヤチャイロコメツキの記録

ツヤチャイロコメツキ *Suzukielater babai* (Kishii et Ôhira, 1956) は, 新潟県の弥彦山で採集された個体に基づいて岸井・大平 (1956) により命名記載された種である。当時は, *Sphenomerus* 属に置かれていたが, 現在は Kishii (1987) により本種をタイプ種として設立された *Suzukielater* 属として扱われている。分布はこれまでに, 種子島 (茎永, 前之浜), 鹿児島県 (大隅半島; 屋久島), 宮崎県 (佐土原町), 福岡県 (岡垣海岸; 沖の島), 山口県 (鹿野町), 鳥



Fig. 1. *Suzukielater babai* (Kishii et Ôhira, 1956), ♀.

取県 (大砂丘), 島根県, 愛知県 (渥美半島), 新潟県 (弥彦山), 秋田県 (雄物川河口), 北海道 (豊富町, 天塩町), から記録がされている (有本, 2017; Arimoto & Itô, 2018; 城戸, 2004; 城戸・小田, 2005; 岸井, 1962; Kishii, 1999; 久保田, 2001; 大平, 2001, 2002; 尾崎ほか, 2006; 笹岡, 2018)。

筆者らは, 採集例の少ない北海道の西部沿岸と, 記録のなかった東部沿岸, および記録のなかった三重県において採集された個体を検することが

できたので, ここに記録するとともに, 本種の分布について若干の考察をおこないたい。

検視標本. 北海道: 1 ♀ (Fig. 1), 斜里郡小清水町浜小清水オホーツク海沿岸, 19. IX. 2018, 安藤祐介採集 (鈴木保管); 1 ♂, 天塩町遠別, 19. VII. 1990, Takeuchi leg. (有本保管); 1 ♂, 石狩市石狩浜, 30. VII. 1977, 森正人採集 (有本保管); 2 ♂, 天塩郡遠別町旭~金浦海岸, 11. VII. 2010, 石田浩司採集, 針葉樹の流木から (有本保管); 1 ♂, 江別市野幌, 24. VII. 1977, 森正人採集 (有本保管). 三重県: 3 ♂♂ 1 ♀, 松阪市松名瀬海岸, 19. VI. 2016, 乙部宏採集 (有本保管)。

本種は, かなり珍しい種とされ, その生態や分布については明らかではなかったが, 成虫は海浜に打ち上げられた流木や塵の下などから発見されること, 夜行性であること, 灯火に集まることなどがわかり, それに伴って各地から記録がされるようになった (前出)。また, 本種は暖地系のコメツキムシであると考えられ, 木について南方地域から海流に乗って北上し日本の沿岸地域に運ばれ分布を伸ばしたのでないかと推測されている (大平, 2001)。しかし, 本種が流木内から発見された事例はなく, その確認がつかう望まれていた。

最近, 多数の幼虫が砂浜に埋もれた流木 (朽ち木) から発見され, 生活環が砂浜内で回っていることがはじめて明らかされた (有本, 2017; Arimoto & Itô, 2018)。このようなことや, 本種の分布模様を鑑みると, 本種が木に付いて, 海流により運ばれ, 分布を伸ばしていることはほぼ間違いないだろう。

本種が, 南方地域から流木について運ばれてきたとすると, 北海道西部沿岸地域へは, 日本海側を流れる対馬海流により南方地域から直接, または九州や本州の日本海側沿岸を点々と立ち寄りながら北上したのであろう。また, 今回新たに発見された北海道北東部沿岸へは, 対馬海流により宗谷岬を越えたあと, 宗谷海流に引き継がれて南下して辿り着いたと推測される。一方, 三重県へは, 太平洋側を流れる黒潮により運ばれたと考えられ, 愛知県伊良湖から本種を記録した大平 (2002) も同様に黒潮ののって運ばれたと推測している。

本種の太平洋側の東限は, 現在のところ愛知県であるが, 今後, 海浜を中心とした調査が進めば, さらに東側の地域からも発見されるかもしれない。とくに, 伊豆半島の西側は可能性が高いと思われる, 今後の調査が望まれる。また, 南限は現在のところ屋久島・種子島であるが, これらの島々も流木により運ばれてきた可能性があり, さらに南の琉球諸島からも発見されるかもしれない。

報文をまとめるにあたり、貴重な標本をご提供くださった安藤祐介、石田浩司、森正人、文献や情報をご提供いただいた有本晃一、城戸克也の各氏に厚くお礼申し上げます。

引用文献

- 有本晃一, 2017. 流木に依存するコメツキムシ類の生態と分布. 日本甲虫学会第8回大会 プログラム・講演要旨集: 11.
- Arimoto, K. & R. Itô, 2018. Elateridae (Insecta, Coleoptera) from Tanegashima Island (Ryukyu Islands, Japan). Check List, 14: 681–692.
- 尾崎俊寛・佐藤福男・沼田仁・加納彦一, 2006. 秋田県のコメツキムシ. 75 pp. 秋田自然史研究会.
- 城戸克也, 2004. 鹿児島県大隅半島の海岸で採集した3種のコメツキムシ. 月刊むし, (406): 4–5.
- 城戸克也・小田正明, 2005. 鹿児島県大隅半島の海岸砂丘の甲虫類. Korasana, (72): 26–29.
- 岸井 尚, 1962. ツヤチャイロコメツキ新分布地. Akitu, Kyoto, 10 (4): 19.
- Kishii, T., 1999. A check-list of the family Elateridae from Japan (Coleoptera). Bulletin of the Heian High School, Kyoto, (42): 1–144.
- 岸井 尚・大平仁夫, 1956. 新潟県の叩頭虫. 特に馬場金太郎博士の蒐集品に就いて. Akitu, 5: 71–84.
- 久保田義則, 2001. カミキリムシ枯れ枝採集方の一試行. Satsuma, 51: 192–196.
- 大平仁夫, 2001. ツヤチャイロコメツキについて. 越佐昆虫同好会報, (85): 7–11.
- 大平仁夫, 2002. 伊良湖岬で採集されたツヤチャイロコメツキの紹介. 虫譜, 41: 3–4.
- 笹岡康則, 2018. 河口の甲虫の記録. タテハモドキ, (55): 13–15.
- (鈴木 互 211–0031 川崎市中原区木月大町6–1
法政大学第二高等学校生物科)
- (有本久之 558–0052 大阪市住吉区帝塚山西3–4–21)

【短報】香川県小豆島におけるクロサワツブミズムシの記録

クロサワツブミズムシ *Satonius kurosawai* (M. Satô, 1982) はツブミズムシ亜目 Myxophaga ツブミズムシ科 Torridincolidae に属する甲虫で、日当たりの良い水の染み出した岩盤という特殊な環境に生息している。

香川県における本種の記録は、琴南町(現まんのう町)大川山でコンクリートの壁から得られた採集例(上手, 2003)しか報告がない。筆者らは、香川県の離島、小豆島において本種を採集しているので記録を報告する。日本列島の島嶼部における本種の記録は屋久島(Hájek *et al.*, 2011)のみで、その点からも貴重な記録と考えられる。



図1. 本種の生息環境(内海ダム周辺)。

13 exs., 香川県小豆郡小豆島町福田, 28. IV. 2018, 脇村採集・保管。

3 exs., 香川県小豆郡小豆島町神懸通・内海ダム周辺, 24. XII. 2018, 藤本採集・保管。

いずれも、道路法面のコンクリート壁にある排水管の染み出しから得られた(図1)。いずれの染み出しも日当たりが良く、繊維質の藻類が付着していた。しかし、兵庫県での生息環境(脇村・森, 2019)では藻類が見られなかった場所もあったため、本種の生息には必ずしも必要でないと思われる。

末筆ではあるが、本種に関する文献をご教示いただいた辻雄介氏(山口県岩国市)に厚く御礼申し上げます。

引用文献

- 上手雄貴, 2003. 四国におけるクロサワツブミズムシの記録. へりぐろ, (24): 82.
- Hájek, J. Yoshitomi, H. Fikáček, M. Hayashi, M. & F-L. Jia, 2011. Two new species of *Satonius* Endrödy-Younga from China and notes on the wing polymorphism of *S. kurosawai* Satô (Coleoptera: Myxophaga: Torridincolidae). Zootaxa, 3016: 51–62.
- 脇村涼太郎・森 正人, 2019. 兵庫県におけるクロサワツブミズムシの記録と生息環境に関する知見. きべりはむし, (42): 84–85.

(脇村涼太郎 671–1116 兵庫県姫路市広畑区正門通
4–4–2–201)

(藤本博文 760–0005 高松市宮脇町1–17–4)